

キュレーターや批評家 若手アーティスト支援

昨年度、那覇文化芸術劇場なはーとでは沖縄「復帰」50年や世界のウチナーンチュ大会関連事業を始め、多くの自主事業を展開しました。

令和5年度も那覇市の文化芸術の拠点となるよう、継続的な取り組みを訴えました。市内の他の文化施設との連携については、壺屋焼物博物館と共同で現代陶芸作家展を企画しているとのことで、文化芸術面の横の広がりが期待できます。

アーティストのみならず、キュレーターや批評家に対する支援事業を予定。その中で文化芸術の企画制作やプロデュースに関わる人材や、若手批評人材を育成するためのワークショップ等を開催し、支援や連携につなげたいとの答弁がありました。

若手アーティストの育成政策については、施設を一定期間若手アーティストに貸出すなどの支援の提案。これに対し、「他施設での取組みなども参考にしながら、今後検討。若手アーティストや実演家の発表の機会の創出に一層努めたい」との答弁がありました。

普久原あさひ

所属・役割など

- 都市建設環境常任委員会
- 議会運営委員会
- 広報参画部会
- なは市議会だより編集委員会
- 市議会「立憲なは」会派 幹事長
- 那覇市・南風原町環境施設組合議員
- 沖縄立憲民主党幹事長補佐・つながる本部（世話人）

経歴

- ・1994年那覇市生まれ(28歳)
- ・真嘉比小、安謝小、大道小を経て
- ・真和志中、浦添高校・日本大学国際関係学部卒業
- ・「辺野古」県民投票の活動に参加
- ・2019年6月香港200万人デモ撮影
- ・沖縄アジア国際平和芸術祭2020実行委員事務局・出展
- ・2021年那覇市議会議員選挙で26歳最年少で初当選

なはねこガイドライン策定 サポーター制度が始まります

令和5年3月に「人と猫との共生に関するガイドライン（なはねこガイドライン）」が策定されました。自治会長、獣医師、ボランティア団体の方々などと共に、私も策定委員として参加させていただきました。

合わせて、なはねこサポーター制度も始まります。新たな制度と共に、那覇市もボランティアも地域の方々も一緒になって、人と猫が共に暮らせる地域社会を目指して取り組みます。

なはねこサポーター登録の流れ

申し込み(書類提出) → 講習会受講 → 地域調査 → 登録通知 → 支援開始

活動内容 事前に登録を受けた地域において、なはねこガイドラインに沿って

・野良猫の避妊去勢手術や必要に応じた保護・譲渡

・野良猫用トイレの設置や、排泄物の掃除

・活動地域内の猫に関するトラブルへの対応

・マナーを守った餌やり

・地域への活動報告



市民相談・お問い合わせはこちら

〒902-0067
沖縄県那覇市安里381 1-D (栄町市場内)

080-3982-4178 asahi.f.info@gmail.com

あさひ

那覇市議会議員・写真家 普久原あさひ活動報告



本号の記事：

- ・教員の多忙化問題
- ・ミサイルによる国民保護訓練
- ・文化行政
- ・ねことの共生

初当選からもうすぐ2年 アフターコロナに向け生活の立直しへ

はいさい！みなさんこんにちは。那覇市議会議員で写真家の普久原朝日です。地域のみなさまに支えられながら、早くももうすぐ2年になります。地元である栄町市場にも人の姿が戻りつつあります。アフターコロナに向けて経済や生活環境をしっかり整えなくてははいけません。これからも日々活動を通して様々なご意見、ご要望や相談を受け、那覇市の行政へ繋いでまいります。

てんこ盛りの2月議会、 動物行政で成果も

次年度の予算を決める2月定例会(2/8-3/17)は、例年に増して多くの議論が巻き起こりました。学校現場における教員の多忙化問題、弾道ミサイルを想定した国民保護訓練、那覇市議長室で行われた金銭授受問題などです。

初当選直後から取り組んできた動物行政、人と猫との共生については、令和5年度で新たにに取り組む事業が決まり約260万円の予算がつきました。野良猫問題は動物愛護だけではなく、福祉や地域の環境問題という視点もあります。猫が住みやすい街は、人にも優しい社会です。引き続き、人と猫とが共生できる那覇市を目指します。



普久原あさひ



SNS・最新情報はここから！





先生がいなくて学級解散・分散？ 教員の負担軽減と 人材確保を要望

昨今メディアでも大きく取り上げられている教員の多忙化問題について、立憲民主党の水岡俊一参議院議員事務所から、「那覇市の小学校で学級解散があったと聞いた」と問い合わせがありました。那覇市の教育委員会に問い合わせたところ、把握していないとの回答。すぐに調査したところ市内小学校3校、中学校2校で学級解散・分散したことが確認されました。このことは国会でも取り上げられ、学校現場の働く環境の改善へ向けた議論につながりました。

教員の負担軽減へ うるま市の取組など紹介

教員の業務を切り分けることは、教員の負担軽減に有効的な手段の一つです。

うるま市では、学校への電話、欠席・遅刻等の連絡、放課後の連絡、学校からの着信履歴、警察・消防以外やむを得ない連絡は市役所へ行うように、といった内容の通知が、今年1月に教育委員会から保護者に向けて行われたそうです。

そこで、那覇市の現状を確認し、さらなる改善へ訴えました。留守番電話の導入については、全校へ活用を周知しているとのことでした。しかし、導入できてないところもあるため、今一度の周知、導入のための機材の補助を要望しました。

欠席・遅刻等の連絡については、ICTを活用した取組として、小学校32校、中学校16校で、Googleフォームや那覇市公式LINE欠席連絡アプリ等を活用しているが、こちらも対応できるクラスを増やすよう訴えました。

他にも、代表質問では正規職員の増員、臨時任用教員の補充の取り組みについて質問し、「関係機関と連携を図りながら、引き続き教員の定数改善を国や県に要望し、よりよい教育環境づくりに努める」との答弁がありました。

2月14日の琉球新報の一面では、「40人学級」へ増員可能性との報道がありました。那覇市教育委員会に質問したところ、那覇市でも県からそのような連絡があったとのことでした

ただでさえ、教員の業務量が多い中で生徒数が増えることは、生徒一人ひとりと向き合う時間が奪われてしまうことになります。

子どもたちが安心して安全に育つ学校現場を守るためにも、県や国にも状況改善へ訴えてまいります。

タブレット端末の活用 家庭学習夏休までに

タブレット端末の活用を積極的に進めることは、児童生徒の学習状況に合わせた個別最適な学習、採点やつまずきの分析の自動化というメリットとあわせて、教員の負担軽減の効果が挙げられます。

今年の夏休みまでに、端末の持帰り用かばんの購入など、日常的に端末を持ち帰ることができる環境の整備が予定されています。家庭によって環境の違いが出ないよう、経済的な理由によりWi-Fi環境を整えられない家庭に対し、モバイルWi-Fiルーターを貸与し、通信費は市で負担する予定とのことでした。



ミサイル想定 の避難訓練 実施は適切だったのか？

1月21日（土）に、那覇市銘苅にある、なは市民共同プラザ及び周辺にて弾道ミサイルを想定した国民保護訓練が行われました。

政府による防衛費増加や、自衛隊の南西シフトが進む中に行われた訓練に、市民からも不安の声や抗議をする方々も多くいました。那覇市の担当課長は「国に訓練を申し込んだ4月時点では防衛費増や自衛隊増強などについて分らなかった。今すぐく（訓練の）タイミングが悪い。恐怖心を与えてしまったのは反省点もある」と述べたという報道もありました。（琉球新報1月19日）

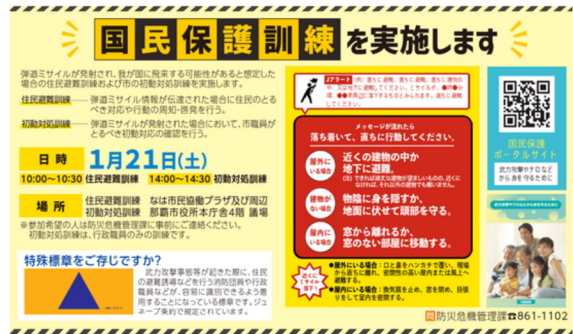
今回の実施のタイミングや反省点は無いか知念市長に問いましたが、答弁をせず十分な説明はありませんでした。

約3割の市民が 取り残される可能性？

また、緊急一時避難施設（堅牢な建物や地下施設）に避難可能な人数を人口で割った人口カバー率は全国平均108.5%(R3.4.1)であるのに対し、那覇市での人口カバー率は、74%であることがわかりました。ミサイルは数分で届くと言われており、ただでさえ3割の市民がこぼれ落ちる現状の中、働く昼間人口や観光客の多い那覇市では到底対応できるとは思えません。

戦争は人災であるからこそ交戦ムードを高める当事者にだってなる可能性があります。だからこそ積極的な平和構築をする努力が大事です。今回その努力を十分に行った上での実施だったのか、検証をしなければいけません。

台湾有事が叫ばれ、自衛隊を含めた基地の南西シフトが進む今だからこそ、改めて平和を築き上げていくようこれからも訴えていきます。



他にも様々取り組んでいます！
詳しくは、下のQRコードから！

代表質問

- 子どもの権利条例の制定
- オープンデータ化の進捗と取り組み
- 住宅確保要配慮者の「専用住宅」登録拡大への取り組み
- 地域猫活動に向けた取り組み
- ゼロカーボンシティ宣言に向けた取り組み
- 生活困窮者への支援
- 子どもの貧困対策
- 施政方針の中での平和への思い
- 県民投票の認識について

一般質問

- 認可外保育施設の質の確保・向上への取り組み
- 文化行政
- 学校行政

市民相談・お問い合わせはこちら

〒902-0067
 沖縄県那覇市安里381 1-D (栄町市場内)
 080-3982-4178  asahi.f.info@gmail.com



←ここから
議会質問見れます！
 那覇市議会インターネット中継